

新穂高溪流保全事業の施工にあたって

(株)高田組 右俣谷第2号床固工及び歩道橋上部補償工事

(工期：平成20年9月9日～平成21年3月30日)

現場代理人 ○竹田 淳

監理技術者 竹田 淳



1. はじめに

蒲田川上流の新穂高には奥飛騨を代表する観光名所、新穂高ロープウェイがあります。この新穂高を流れる右俣谷では新穂高溪流保全事業として、数年前から砂防堰堤や護岸等の施工を実施しています。本工事箇所は、この新穂高ロープウェイの目の前に位置する為、観光客や観光施設への配慮が常に必要である工事現場であります。

本論文では、

- ・多くの観光客が訪れる新穂高で工事を実施するにあたっての『観光客・観光施設に対する配慮』

についての創意工夫等を書かせてもらいます。

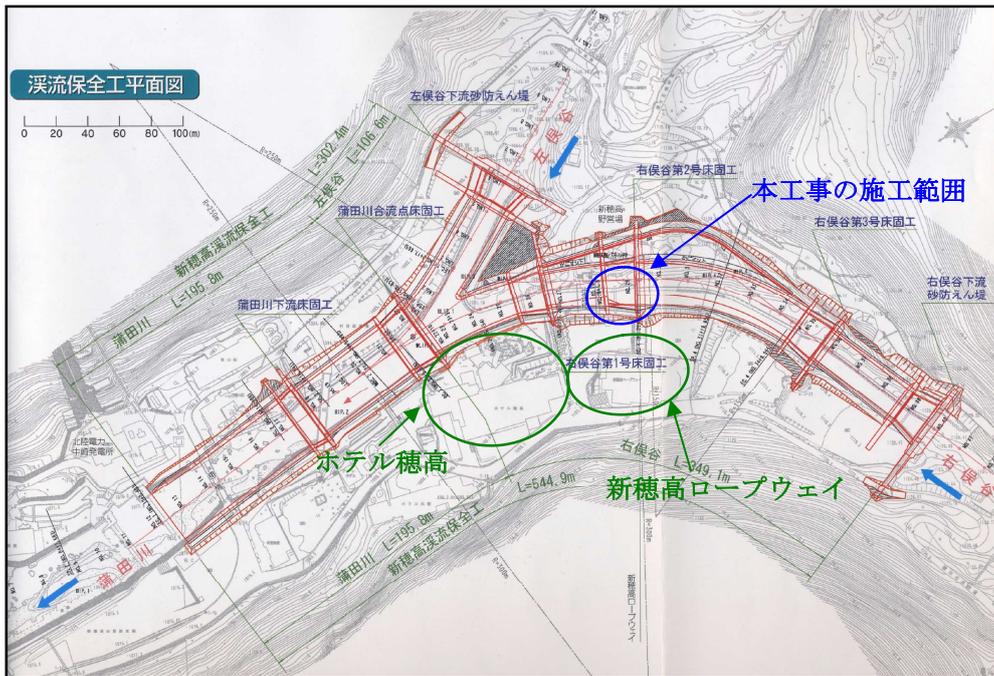
2. 新穂高溪流保全工の概要

新穂高溪流保全事業とは、新穂高地区を流下している蒲田川および、その支流の右俣谷、左俣谷は川幅が狭いうえに、宿泊施設等が近接しているため土砂流出による被災の危険性が高い地区となっているので、地域の山岳景観、親水性等に配慮しつつ、土砂災害に対する安全性の確保を図る為川幅を広げ、異常な流出土砂をスムーズに下流に流下させるとともに、上流域の流出土砂の抑制を図る土砂災害防止施設（溪流保全工）の整備工事であります。

本工事内容は、この事業の一部分である2号床固工及び歩道橋の付け替えが主たるものです。



【異常出水時の右俣谷】



3. 『観光客・観光施設に対する配慮』

昨年9月に開催された安全大会の中で事務所長は『奥飛騨温泉郷の自然景観は観光客への最大の商品』と話されました。私は前年度もこの場所で工事をやらせていただきましたが、その時にはとにかく観光客との事故やトラブルが起きないことばかりを考えており景観に対する配慮はあまりなかったと思われます。そこで今年度工事では『観光客・観光施設に対する配慮』として以下の対策を実施しました。

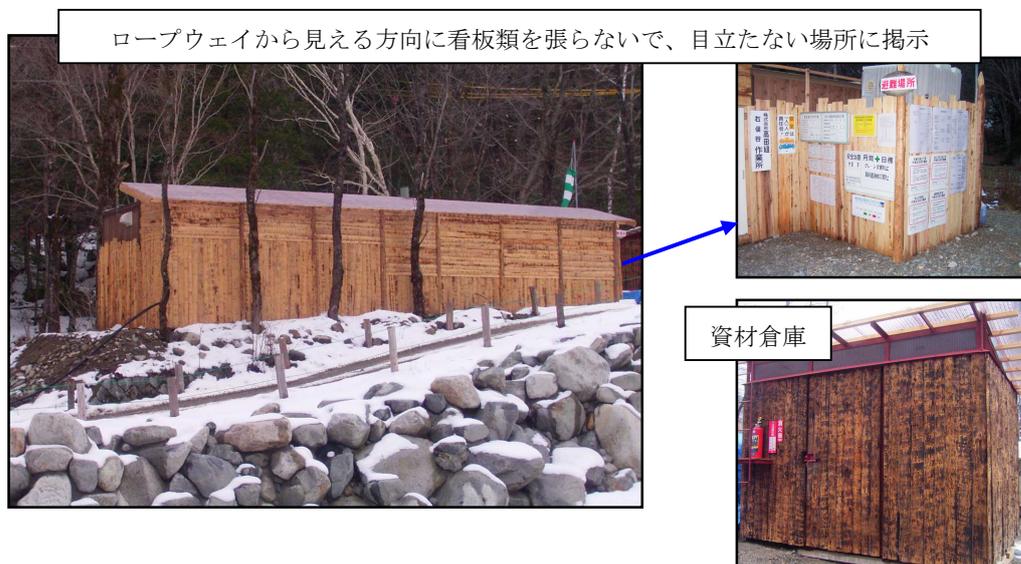
(1) 注意看板・立入禁止柵について

- ・観光客から目立つ位置に設置する、注意看板や立入禁止柵は間伐材を使用したものを利用。



(2) 現場事務所・休憩所・資材倉庫について

- ・現場事務所・休憩所のコンテナハウスは、間伐材を使用し周囲を覆う。
- ・ロープウェイから見える方向の壁には安全看板類を張らないようにする。
- ・資材倉庫の周囲も間伐材を張る。



(3) 現場内の仮橋について

- ・現場に設置した仮橋（観光客用の散策道へ行く為のもの）には、手摺の単管に間伐材を設置。（手摺の間からの転落防止対策と、橋の上から下流の露天風呂がのぞかれるのも防止）



(4) 立入禁止明示や路肩明示のロープについて

- ・トラロープを使わないようにし、緑色のロープを使用。
- ・ロープの柱も、鉄筋のアンカーピンではなく間伐材の丸太を使用。



(5) 重機の駐車場所について

- ・観光客が多く訪れる土曜・日曜日は工事現場が基本的に休工となる為、使用していない重機はロープウェイ駐車場等からなるべく見えない林の後ろ等にまとめて駐車しておく。



(6) 資機材等を覆うシートについて

- ・現場の資機材等を覆うシートは、まだ全てのシートではありませんが一部をブルーシートから、暗色のシートに変更して人工物を極力目立たないようにする。



(7) 工事の作業時期・時間帯について

- ・紅葉シーズン等観光客が多い時期には工事範囲をなるべく広げないようにするとともに、休日作業は行わない。
- ・転石破砕等の騒音が伴う作業は、周辺宿泊施設と連絡を密にとり、お客様がチェックアウトした時間(10:00頃)から作業を実施し、チェックインの時間(15:00頃)には作業を終了する。

以上が当現場で『観光客・観光施設に対する配慮』として実施していることです。

4. まとめ

現場の人達にも協力してもらい、小さな事からこつこつと配慮しているつもりですが、やはりまだ配慮すべきこともたくさんあると思います。当現場は現在も施工中です。暖かくなるにつれて観光客も増えてきます。工事完成まで観光客・観光施設に対しての気配りを怠らないようにしたいと思っています。ただ、気配りと思い、危険箇所を設置する注意看板や立入禁止柵等の安全設備について景観を重視しすぎ、

安全設備において景観重視 = 危険箇所が目立たない = 危険である

とならないよう、工夫していく事が今後の課題です。